

平成 29 年度経済学部学生チャレンジプロジェクト事業成果報告書 地元再発見の旅プロジェクト（またたび）

代表者 井本 航樹（地域社会システム学科 2 年）

（1）目的と概要

香川県には、有名な観光地以外にも多くの魅力的な観光資源が存在する。しかし、外部の人はおろか地元の方々ですえそれを知らないというのが現状である。

そこで本プロジェクトでは、香川県の観光資源・食・地場産業などを地元の方々に発信することで、地元の隠れた魅力を再発見してもらい、地域活性化に繋げることを目的として、新日本ツーリスト(株)と連携し、「地元再発見の旅」をテーマとしたバスツアーの企画・添乗を行った。

（2）実施期間

平成 29 年 4 月 1 日 から 平成 30 年 3 月 31 日

（3）成果の内容

1) このプロジェクトの具体的な成果

	日程	場所・内容	参加人数
第 22 弾	5 月 13 日(土)	高松市・牟礼町	20 名
第 23 弾	6 月 11 日(日)	観音寺市	15 名
第 24 弾	8 月 27 日(日)	さぬき市	10 名
第 25 弾	11 月 19 日(日)	仲多度郡多度津町	7 名
第 26 弾	2 月 24 日(土)	さぬき市志度・東かがわ市五名	13 名

今年度、「地元再発見の旅」ツアーは第 22 弾から第 26 弾までの計 5 回行った。

「地元再発見の旅」のテーマに則って、地元香川県内をツアーの目的地に限定し、香川県内の方を対象にツアーの企画、催行を行った。ツアー内容は本ツアーに協力して下さる地元の企業や人の協力を得て地元再発見のテーマに合わせた、このツアーでしか体験できないようなことやものを企画している。個人では体験できない、ツアーならではの企画を軸としている。ツアー企画の流れとしては、視察や様々な場所で得た情報などを元にツアー先の候補を絞り込み、学生が実際に現地に赴き地元の方と交渉や打ち合わせを重ね行程を練り、ツアー当日に添乗も受け持ち、1 つのツアーの完成としている。これらの一連の過程は基本的に学生主体で行っており、学生の考える地元再発見がツアーを通じて具現化されている。ツアーを作るに当たって視察や打ち合わせなどを通じて学生自身も対象地域について詳しく知ることができ、ツアー内でお客様を案内できることはもちろん、我々自身も香川県の魅力に触れることができ、活動を通じて香川県への理解

を深めることにつながっている。

本プロジェクトで得られた成果として地域の方とお客様の双方への働きかけが考えられる。まず、地域の方はツアーを行う上では欠かせない要素であり、地域の方の協力で地元再発見の旅が成立している。香川県の各地域には、仕事や活動を通じてその土地や文化の魅力の発信に努める方がたくさんいらっしゃる。そこで、私達がツアーを通して、そのような地域の人たちとお客様をつなぐことで地域の方を勇気づけることに繋がっている。

また、お客様に関してはツアーを通じて本プロジェクトの目的である地元の魅力を再認識するとともに、参加者の中に年配の方が多くこともあり、学生がガイドをするツアーに参加することで若者との交流に繋がり、元気づけられるというお声もツアー後のアンケートで多くいただいている。これは学生主体の私達のツアーならではの成果である。また、ツアー内のワークショップや昼食、買い物などは微力ではあるが地域にお金を落とす構造の一部となっており、経済学部プロジェクトとして経済的な面の地域活性化に繋がっている。

今年度も昨年度に引き続きツアー資源発掘のための視察を行った。今年度は視察の方針として、場所ではなく人に会いに行くということを掲げた。昨年度以前から、より魅力的なツアーを作るにはその地域に精通したキーパーソンを見つけることが重要だと考えていた。地域に精通した人物から得る情報は視察の賜物であり、ツアー内容により深みをもたせることができるからである。今年度の視察はそのようなキーパーソンに会いに行くことを主な目的として行った。11月に多度津町で行ったツアーは、まちあるきのイベントを通じて繋がった多度津まちあるきの会の方の協力を得て企画したものである。このような経験から、地域のキーパーソンと繋がればそこからまた新たな地域の方との出会いがあり、結果としてツアー企画に向けた地域の方との関係づくりが円滑に進むということも言える。今年度の経験を活かして、来年度はまちあるきイベントなどを通じた視察を行い、地域の方との繋がりをさらに広げていきたいと考えている。

加えて、活動全体を通じた学生の成果として、新日本ツーリストの方や地域の方と打ち合わせや交渉を行うことで、コミュニケーション能力の向上やものごとを生み出す企画力が養われている。プロジェクト内で行う資源発掘からツアー行程の組み立ては、学生が実践を通して学ぶものとなっており、自ら考え実際に行動することで身につけている。



地域に精通した方の紹介により
様々な場所へ伺った視察の様子



地元のお母さん手作りの
ツアー限定ランチ

そして、今年度の広報は主にフェイスブック、ホームページ、リーフレット、月刊香川 komachi で行った。特に昨年度作成したホームページとリーフレットはプロジェクトにおける名刺としての役割を大いに果たしており、初対面の方に自分たちの活動内容を分かりやすく伝えるための手段として活用できた。



ホームページ



ツアーの様子

2) このプロジェクトが大学や地域社会の活性化、学業の振興などに対してもたらした影響あるいは効果

大学にもたらした影響としては、経済学部プロジェクトの中の産学連携のモデルケースとして1つのあり方を示せたのではないかと思います。本プロジェクトは活動内容の性質上学生と企業の関わりが特に密接であり、大学と企業が連携して活動に取り組む1つの例として挙げられるプロジェクトである。地域社会の活性化の面としては、ツアーを通じた人や物、食べ物や地場産業などの魅力発信と、ツアーで得られる経済効果の2つが挙げられる。経済効果については微々たるものかもしれないが、本プロジェクトを通じて発掘した資源は、ツアーの中で存分に紹介され、そこからさらにそれに伴う情報発信によって様々な場所へ拡散される。そうしたプロセスの中で、その資源を知った人たちがその地域に興味を持ったり、実際に訪れたりすることが期待される。学業の振興に対しては、学生のうちから観光ビジネスの場に携わることでリアルな旅行業の現場が体験できている。これは長期的なインターンシップの役割を果たしており、将来旅行業・観光業につきたい学生にとって、貴重な学びの場となっている。また、社会人の方と関わりながらの企画の立案や遂行は、学生自身が考え、行動することで自己成長を図ることができる場となっている。

(4) プロジェクトから学んだこと

プロジェクトを通して、地域活性化の手段の一つとして観光は大きな可能性を秘めているということを学ぶことができた。地元再発見の旅を通じて地域の魅力を発見し発信することは、他所の人からその地域への関心を高めることに繋がり、結果として地域活性化に繋がるということを学ぶことができた。また、他の大学で地域活性化に取り組んでいる団体との交流は、連携企業、地域との関わり方について違った視点から自分たちの活動を見直すことにつながり、活動についての視野を広げることができた。学生一人ひとりが責任感を持ってツアーづくりに携わることで、その大変さややりがいを感じ、旅行業務や観光業界について身をもって体験することができた。本プロジェクトは来年度以降も新日本ツーリストと

連携し、地元再発見の旅を企画していく予定である。活動の中ではいくつか課題も生じてきており、それらの解消に務めるとともに、引き続きツアーを通じて地域の魅力を発信していきたいと考える。

(5) 実施メンバー

代表者	井本 航樹	(経済学部 2年)
実施者	海老 智尋	(経済学部 3年)
	片山 実穂	(経済学部 3年)
	東谷 風花	(経済学部 3年)
	増田 友美	(経済学部 3年)
	永井 成味	(経済学部 3年)
	阿河 友紀子	(経済学部 3年)
	井本 航樹	(経済学部 2年)
	太田 好	(経済学部 2年)
	荻野 名奈子	(経済学部 2年)
	高下 彩	(経済学部 2年)
	佐川 貴和子	(経済学部 2年)
	多田 真帆	(経済学部 2年)
	堤 菜美	(経済学部 2年)
	井川 直香	(経済学部 2年)
	小笠 葉奈	(経済学部 2年)
	浅岡 美帆	(経済学部 1年)
	富山 結衣	(経済学部 1年)
	平門 芽生	(経済学部 1年)
	平田 紀子	(経済学部 1年)